# かみきたざわとしょかん











| にち | うぜ | か  | すい | もく | きん | رد |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日  | 月  | 火  | 水  | 木  | 金  | Ŧ  |
|    |    |    |    |    |    |    |
|    |    |    |    |    |    | 1  |
|    |    |    | *  | Q  |    |    |
| 2  | ფ  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  |
|    |    |    | *  |    |    |    |
| 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
|    |    |    | *  | Q  |    |    |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 |    |    | *  |    |    |    |
| 30 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |

#### ☆彡 7月 ⑫

| にち | げつ   | か  | すい | もく | きん | بخ |
|----|------|----|----|----|----|----|
| 日  | 月    | 火  | 水  | 木  | 金  | 土  |
|    |      |    | *  | Q  |    |    |
|    | 1    | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  |
|    |      |    | *  |    |    |    |
| 7  | 8    | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 |
|    |      |    | *  | Q  |    |    |
| 14 | (15) | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
|    |      |    | *  |    |    |    |
| 21 | 22   | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
|    |      |    | *  |    |    |    |
| 28 | 29   | 30 | 31 |    |    |    |

かみきたざわとしょかん かいかんじかん

ごぜん9じ~ごご7じまで

○のついている日:ごご5じまで

かみきたざわとしょかんおやすみのひ



の日はおやすみです



(つうじょう月ようび)

※7月25日(木)は、**館内整理のため、お休み** です。

## おはなし会

★の日 ごご3じ~3じ30ぷん

(3さい~小学生ぐらい)

#### 

♥の日 ごぜん11じ~11じ30ぷん

(0・1・2さいとほごしゃ)

\*たのしいえほんや、かみしばいなどをよ みます!ぜひ、あそびにきてくださいね!

まってるよ~!





#### 【あめ・みず・かたつむり・かえる】

梅雨の季節は、家の中にいることが多くなります。 「たかい」 今回のサラダ新聞では、雨の日も楽しくすごせるよう な本を紹介します。





#### かたつむりタクシー たむら しげる さく

ふくいんかんしょてん しょしばんごう

福音館書店 書誌番号:005977828

お父さんといっしょに、おばあちゃんの家へあそびにいきます。 雨がふってきたので、かたつむりのタクシーにのっていくことになりました。 山をのぼり、くだり、さかさまになったり・・・。 いろいろな町も見ながら、のんびりとおでかけします。



### アマガエルのうた 谷口 智則 作

アリス館 書誌番号:006507821

グアグアグアとないて雨をふらせる、いっぴきのアマガエル。 けれどもほかのカエル達から「君のうたなんて役にたたない」と言われて しまい悲しくなってしまいました。そこでアマガエルは、自分のうたを必要だと 思ってくれる虫や動物をさがしにいきます。



#### あめのひえんそく まつお りかこ 花・絵

岩崎書店 書誌番号:005412346

集りみにしていた遠足でしたが、雨で中止になってしまいました。 \*\*\*
悲しくてたくさん泣いたモンタくん。そこへおかあさんがやってきて、「遠足にいく わよ」といいます。外はまだ雨がふっているのに、どうやって遠足にいくので しょうか?



#### 

るくいんかんしょてん 福音館書店 書誌番号:004395684

むかし、とてもながれのはやい川がありました。橋をかけてほしいとお願いされた大工さんは、橋をつくることができるかどうか心配になりました。川をみつめていると、川の中から大きなおにがあらわれて、「めだまをくれたら橋をつくってやる」といわれてしまいます。大工さんとおにのやりとりが楽しいむかしばなしです。